

竹内家は江戸時代(1603-1867)の終わりに粟賀町に屋敷を建てた商人だった。彼らはさまざまなもの、お茶、醤油酒など商い、それらは自分たちで生産していた。「仙霊茶」として知られる緑茶の卸売業者として、はるか京都まで称賛を得ていた。そこではその茶は皇后さえにまで感銘を与えることになり、寺の一つでは人気のある飲み物になった。

当時の商人には普通にあるように、竹内家の玄関にある部屋を店先として使っていた。屋敷の裏には4つの倉があったが、今日では一つしか残っていない。仏壇が家の中心に安置されている。